

【ベンチャー部門】

【神奈川県知事賞】 「住み開き」によるカフェ経営と多世代交流事業の開催
「ハートフル・ポート」五味 真紀 氏

【事業の概要】

- 自宅の一部を開放（住み開き）し、主婦目線、母親目線を大切にしたカフェを経営するとともに、音楽コンサートなど、地域住民が企画する多世代が交流できるイベントの場として提供することにより、収益を得る。



- 自宅を活用することで、場所や設備費用を極力抑え、事業の継続や発展を図る。
- あわせて、多世代が家族のように食卓を囲む「みなと食堂」、認知症の方やその家族が気兼ねなく安心して参加できる「みなとの茶店」等を定期開催することで、孤食化・孤立化など、地域課題の解決にも取り組む。

【起業のきっかけ】

長い主婦業の中で「主婦力」こそ地域社会には重要な資源だと思った。その主婦力が活かされるコミュニティカフェという開かれた場を作ることで、人と人とのつながりを生み、地域のひとと協力して地域課題の解決に取り組みたいと考えた。

【優秀賞】 農耕馬との交流によるQOLの向上

「株式会社 葉山ハーモニーガーデン」下山 良嗣 氏

【事業の概要】

- 馬の持つ癒しの力に着目し、自宅周辺が里山という環境を活かして、農耕馬を用いた農作業体験サービスを展開する。
- 主な顧客は高齢者や障がい者とその家族とし、家族ぐるみでの体験で喜び、楽しみを共有してもらいながら、健康寿命の延伸とQOLの向上を目指す。
- 個人客だけでなく、企業や学校・福祉施設などにも、社員教育や福利厚生プラン・課外プログラムとして提案し、安定的な収益につなげる。



【起業のきっかけ】

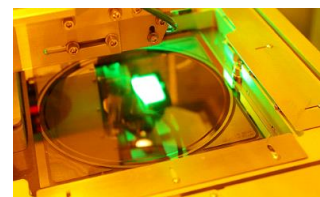
以前、養護学校の生徒や教諭に乗馬を体験してもらった際、生徒たちの目の輝きから、馬の持つ癒しの力に気づいた。昨年度、本グランプリのプラン部門でベストプラン賞を受賞したことも後押しとなって、起業に結びついた。

【奨励賞】 海外半導体企業向け日本進出のトータルサポート

「ケーターセミ ジャパン 合同会社」山本 一博 氏

【事業の概要】

- 半導体分野に特に注力し、海外製造業者がスムーズに日本市場で成長していくことができるよう、売り込みから物流までトータルにサポートする。
- 海外と日本の企業のギャップ（品質の捉え方等）を考慮したマーケティングを行い、顧客に提供していく。



【起業のきっかけ】

米国の半導体会社に 37 年間勤務して培った経験や人脈を活かし、海外のベンチャー企業を支援したいとの考えから起業した。技術サポートから営業、マーケティング、経営等幅広い経験があり、テクノロジーの最先端に身をおき続けたいという思いもあった。

【プラン部門】

【ベストプラン賞】 箸使いイベントの実施と子ども向け箸の製造・販売

提案者 平沼 芳彩 氏

【プランの概要】

- 「箸コンシェルジュ」を創設し、箸使いを学ぶセミナーや箸づくりのワークショップを実施する。
- 木工を趣味とする地域のシニア等の協力を得て、子どもの成長に合わせたサイズ展開が豊富な箸を製造・販売する。
- 県内の木を使った地域限定の箸を作る。



【起業を目指す動機】

多くの子ども達が正しく箸を使えていないことを危惧し、「箸コンシェルジュ」の創設を思い立った。また、箸を正しく使うには、子どもの手のサイズにあった箸が必要不可欠と考え、箸使いイベントとともに、子ども向け箸の製造・販売することで、箸文化を伝えたいと思った。

【優秀賞】 NPO向けICTを活用した広報セミナーの開催

提案者 海老名 要一 氏

【プランの概要】

- 無料で教材をWEB上に掲載し、自己学習ツールを提供する。
- 無料教材利用者のうち、より実践的に学びたい方を対象に、有料のセミナーを開催し、手厚いサポートを提供する。



【起業を目指す動機】

プロボノ（専門知識や技術を活かした地域貢献活動）として、3年間NPOの広報活動を支援してきた。NPOでは、WEBの更新やSNSの利用、印刷物等の広報活動が十分に行われていないことを実感し、これまでの業務（商品マーケティング、営業部員教育等）やボランティア経験を活かし、起業を目指すこととした。

【奨励賞】 高齢者とその家族向け安全運転講座の開講

提案者 大友 規益 氏

【プランの概要】

- 高齢運転者が起こしやすい事故に注目した講座を高齢者とその家族に向けて開講する。
- 健康状態や運転環境に合わせた指導を行い、安全運転を行うことが困難と認められた場合は、家族に医療専門家を紹介するなど、適切に対応する。
- 室内講座だけでなく、運転状況のカメラ撮影やフォローアッププランなど、提供メニューを増やし、教習所などが実施する講習との差別化を図り、収益につなげる。



【起業を目指す動機】

自動車会社の研究開発部門において、エンジン設計者として車の開発に40年携わり、どうしても安全に運転できるか、十分なノウハウがある。自らの経験や知識を役立てたいと考え、起業を目指すこととした。